

# 内海機械、本社に新工場

## 自然エネ向け受注に対応

【福山】内海機械（広島県福山市、内海浩社長）は、本社敷地内に新工場を完成させた。工作機械を導入し、25日に正式稼働する。超短納期を特徴にした機械加工の受託が伸びた上、自然エネルギー分野の新規受注を獲得したため能力増強に踏み切った。投資額は建屋と初期導入機を合わせ約3億円。



新工場は敷地面積約1面積約418平方メートルのザックの立型マシンニング1077平方メートル、建築鉄骨造り平屋建て。8グセスター（MC）を年ほど前に購入し、駐車場などに使っていた隣接地に建設した。全社の工場面積は新工場により倍増する。手始めにヤマザキマダの自然エネルギー分野の新規受注品に加え、既存の大型旋盤で高い稼働率が続いていることから、旋盤を追加工導入し負荷を分散する。

ることから、旋盤を追加工導入し負荷を分散する。

内海機械は1949年創業。2007年に3代目の内海氏が社長に就いてからは、当時主力だった工作機械向け部品の加工に加え、インターネット経由で全国から機械加工の受託を強化。最短で受注当日に加工して出荷するという超短納期が好評を得ている。近年では、広島県東部の製造業の集積を生かし、熱処理やメッキなど協力工場のネットワークを組み合わせた複合工程の短納期化の提案を強化している。新工場で受注の強化につなげる。